

平成 28 年 7 月 19 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 28 年 7 月 19 日 (火曜日)

午後 2 時 45 分から午後 4 時まで

2 場 所 教育委員会 会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲            委 員 大橋 岑生            委 員 羽賀 友信  
委 員 青柳 由美子        委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育部次長	金澤 俊道	教育総務課長	武樋 正隆
教育施設課長	中村 仁	学務課長	茂田井裕子
学校教育課長	竹内 正浩	子ども家庭課長	大矢 芳彦
保育課長	大野 宏	中央公民館長	水島 幸枝
中央図書館長	金垣 孝二	科学博物館長補佐	山田 あゆみ
学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之	学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	星野 麻美	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	鈴木 晃	学校教育課学校支援係長	山岸 力

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 34 号	平成 29 年度使用教科用図書採択について
3	第 35 号	長岡市保育園条例施行規則の一部改正について

## 7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 7 月定例会を開会する。

---

### ◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 19 条第 2 項の規定により、大橋委員及び青柳委員を指名する。

---

### ◇日程第 2 議案第 34 号 平成 29 年度使用教科用図書採択について

(高橋教育長) 日程第 2 議題第 34 号 平成 29 年度使用教科用図書採択についてを議題とする。この内容については公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) それでは、非公開とする。

————— 会議規則第 43 条の規定により記録中止 —————

### ◇日程第 3 議案第 35 号 長岡市保育園条例施行規則の一部改正について

(高橋教育長) 日程第 3 議案第 35 号 長岡市保育園条例施行規則の一部改正についてを議題とする。事務局の説明を求める。

(大野保育課長) 長岡市保育園条例施行規則の一部改正について説明する。改正理由は、関係法令や引用法令の改正及び保育料の変更による改正である。改正内容の 1

つ目は、平成 27 年 7 月に全部改正として制定された新潟県児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定による、条ずれの改正を行うものである。2 つ目は、子ども子育て支援法施行令の一部改正により、低所得者層（年収 360 万円未満相当）の世帯における多子軽減の判定児童について、保育園・幼稚園等の同時入園児童の範囲とされている年齢制限を撤廃し、拡充するものである。昨年度までは、保育園・幼稚園等は兄弟同時入園の場合、第 2 子は半額、第 3 子以降は無料であった。今年度からは年収 360 万円未満相当の世帯については、同時入園という年齢の上限を撤廃し、第 2 子は半額、第 3 子以降は無料とする。また、年収 360 万円未満相当のひとり親世帯については第 1 子は半額、第 2 子以降は無料とする。あわせて長岡市保育料方針の決定にともなって、保育料基準額表を昨年度から一律 5 %軽減する。3 つ目は、地方税法の一部改正による、条ずれの改正を行うものである。4 つ目は、引用条項の一部を改正するものである。施行期日については、公布の日から施行し、保育料については平成 28 年度分の保育料算定から適用したい。

（高橋教育長） 質疑・意見はないか。

（高橋教育長） 低所得者層の多子軽減の対象となる方が多いと思う。例えば、上の子が小学校・中学校に在学中で、2 人目または 3 人目が保育園・幼稚園に在園する場合も軽減されるという内容であるが、対象となる方々が長岡市にはどの程度いるのか。

（大野保育課長） 保育園・幼稚園に在園中の、保育料に関係する子どもが約 9000 人おり、その中で対象となる子どもは約 1300 人である。

（高橋教育長） では、約 1300 人は今までより保育料が安くなると思って良いのか。

（大野保育課長） その通りである。ただし、保育料全体も 5 %軽減するため、約 9000 人が軽減されるものである。

（高橋教育長） 昨年度は 10%軽減し今年度 5 %軽減するため、長岡市独自に 15%軽減していることになる。15%の軽減は、県内外をみても、軽減率がかなり高いと思うが、しっかりと軽減していると思って良いのか。

（大野保育課長） 代表的なモデル世帯で保育料を県内比較すると、昨年度までは県内の中ほどの水準であった。他市の状況を把握しきれていないのだが、今回の軽減によってもう少し上位になるのではないかと思う。

（高橋教育長） 保育料の高い・低いのみで比較するのではなく、保育の内容が一番

大事であるが、保育料も保護者や市民にとって大きな関心事であるので、他の自治体の動向がわかり次第報告して欲しい。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(青柳委員) 今回の改正による保育料の軽減は、申請しなければ適用されないのか。

(大野保育課長) 申請する必要はなく、保育料決定の際に適用するものである。

(高橋教育長) 具体的には、何月分から適用されるのか。

(大野保育課長) 4月分からである。8月までは前々年度の市民税で決定し、9月以降は前年度の市民税で算定する。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。以上で、本件は原案のとおり決定した。

以上で、本日の議案の審議を終了する。

---

(高橋教育長) 続いて、協議報告事項に移る。最初に、平成27年度 長岡市の児童生徒の問題行動等について事務局の説明を求める。

(山岸学校支援係長) 昨年度文部科学省が実施した児童生徒の問題行動等の調査の値、その他の質問から読み取れる状況、そしていじめ・不登校・暴力行為の長岡市の取組について説明する。まず、いじめについてである。昨年度の認知件数は小学校で23件、中学校で25件、合計で48件である。過去3年間の件数と比較すると、一番少ない件数であるが、件数が少ないからと言って成果があったととらえるのではなく、どこにでも起こりうるという考え、未然防止・初期対応に努めている。状況としては、小・中学校ともに「冷やかしかからかい」「嫌なことや恥ずかしいことをされる」「軽くぶつかられたりする」が多い。この48件のうち18件はズボン下ろし事案であり、その全てがふざけあいの中で相手のズボンを下ろしてしまったという状況である。また、小学校よりも中学校の方が校内で教職員が発見するという件数が多いことが読み取れる。長岡市の取組として2点あり、1点目は、教育センターでは生徒指導担当者による教育実践講座を実施、学校では学校いじめ防止基本方針に基づいて教育委員会と連携をとって即時対応していることである。昨年度の段

階で全ての学校が自校の防止・基本方針を見直し、改善を図っていることを確認している。また、全ての中学校区で、小・中学校が連携した「いじめ見逃しゼロスクール集会」を実施している。深刻でこじれているいじめの事案は報告されていない。

2点目は、不登校への対応状況についてである。年間30日以上欠席者数は、平成27年度は小学校で57人、中学校で173人、合計230人である。過去5年間の推移をみても、ほぼ横ばいの状況である。今回の調査から、分類と区分という形式に設問が変更された。主な要因（分類）としては、小・中学校とも「不安」「無気力」「学校における人間関係」が上位を占めている。また、前述の要因とは別に、家庭の問題（生活環境の急激な変化、親子関係の問題、家庭内の不和）も要因と考えられるものは小学校67%、中学校38%である。いずれも様々な要因が複雑に絡み合っていると考えられる。また、指導の結果、登校するまたは登校できるようになった児童・生徒は、小学校で15人（26%）、中学校で53人（31%）である。継続した登校には至らないが、好ましい変化がみられるようになった児童・生徒は、小学校で21人（37%）、中学校で50人（29%）である。長岡市の取組としては、一昨年から月に7日以上授業に出席できない児童・生徒を学校と教育委員会で情報を共有することで、状況が悪化する前に適切な初期対応を連携しながら進めている。また、臨床心理士を講師とし、不登校で悩んでいる保護者の会を年間7回実施し、保護者からは肯定的な評価を受けている。さらに、不登校サポートチームを編成し、連携しながら対応を進めたことにより登校できるようになり、結果として、不登校の生徒の卒業後の希望進路の実現がかなえられた事例もあった。次に、市内4か所の適応指導教室及び訪問相談の状況である。昨年度の入級している小・中学生の人数とその後の現状については資料のとおりである。今年度の6月末現在、長岡フレンドリールームに小学生6人、中学生14人の計20人が通室している。訪問相談については、中学生が4名である。栃尾やまびこルームは小学生1名、中学生2名、寺泊はまちゃん教室は小学生1名、また、おぐに日だまりルームについては通室児童生徒はいないという状況である。相談員が学校とこまめに連絡をとりながら対応を行っている。

最後に、暴力行為についてである。平成27年度、小学校で10件、中学校で14件あり、その中でもズボン下ろしが小学校で10件、中学校で8件である。平成26

年度のズボン下ろしの件数と比較すると件数が増えている。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 適応指導教室の現状について、登校もしくは登校するようになったとあるが、両者にはどのくらいの差があるのか。

(山岸学校支援係長) 今回の調査の登校もしくは登校するようになったというとらえ方は、1年間の指導結果を対象としている。例えば、1学期中まったく登校できなかったが適応指導教室等の支援を受けた結果、特定の教科の学習に興味をもてるようになり、年度の後半には興味がある教科の授業だけは受けれるようになった、あるいは、月に1回の登校だった子どもが指導の中で週1回の登校になったという変化をまとめて登校するまたは登校できるようになったと表現している。登校と登校するようになった区分けはないものである。

(高橋教育長) 県や国の調査がこのような表現であるのか。

(山岸学校支援係長) そのとおりである。例えば、明るくいいきとした表情を見せるようになった、朝は全く起きられなかったがきちんと起きられるようになり生活リズムが改善した、身の回りの整理ができるようになった、ということを楽ししい変化として挙げている。

(高橋教育長) 先週の金曜日に加茂市で教育委員会連合会の総会があり、大野義務教育課長からいじめ等について話があった。特にいじめの認知件数について、認知件数が全国に比べて多いということは認知できる体制がととのっているということでもあるため、悲観することはなく、また、認知件数が少ないからといって安心するのではなく、むしろ発見する方に力を入れる必要があり、認知した結果、どのように対処したのかが大切であるという話に共感した。ぜひ、発見・認知にも力を入れてもらいたい。

(羽賀委員) 認知する際の基準が非常に難しい。被害者である児童・生徒の感じ方によるため、一定してない部分がある。長岡市は何を基準にしているのか。

(山岸学校支援係長) 「長岡市いじめ防止基本方針」や各学校で定めている「いじめ防止基本方針」を基準としている。訴えがあった場合、学校はその状況について、速やかに学校教育課に報告している。そして、初期対応として、被害者である児童・生徒や保護者と向き合い、その気持ちを聞き取ったうえでいじめであると判断している。

(青柳委員) 平成 27 年度のいじめについて、48 件のうち 18 件はズボン下ろしと聞いたが、これは被害を受けた児童・生徒が 18 人いたのか、それとも同じ児童・生徒が何度も被害をうけているのか。

(山岸学校支援係長) ズボン下ろしをされた児童・生徒数が 18 人である。

(青柳委員) その 18 人の児童・生徒についてのケアはどのような状況なのか。

(山岸学校支援係長) 学校に行きづらくなった、または仲間関係がこじれたということは、この 18 件の中にはない。学校が、保護者にも確認した事実をきちんと説明し対応したことにより解消したものとする。

(高橋教育長) 先述の教育委員会連合会の総会であがった話題になるが、村上市でズボン下ろしをされた結果、翌日に自分で自分の命を絶ってしまったというケースがあり、それを受けて、いじめ防止・いじめゼロ対策がスタートした。先ほどの質問はこのケースを踏まえての質問であったと思う。長岡市で発生したズボン下ろしの内容は重度のものではないと思っているが、より程度の重いズボン下ろしもあるため、件数だけでなく、内容に応じて対応してもらいたい。

(高橋教育長) 他に、質疑・意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、まちぼん事業実施状況報告について、事務局の説明を求める。

(金垣中央図書館長) 平成 28 年 3 月 8 日から 5 月 8 日に実施した「まちぼん」のヒアリングの結果等がまとまったため、報告するものである。まちなかの公共施設に図書館の本を設置し、大勢の市民から本に親しんでもらうことを目的に、「まちぼん」という事業名で取り組んだものである。設置場所は、資料に記載されているとおり市内 5 か所で行ったものである。それぞれの施設の主な利用者層を想定し、50 冊から 100 冊程度の本を配置した。利用者ヒアリング調査では、取組に対する好意的な意見は 8 割を超え、事業目的は概ね達成することができたと考えている。このような取組は全国でもまだ数件で、長岡市が始めた時点では、県内では初めての取組であった。現時点では、新潟市の一部の図書館でも実施している。今回は試験的な実施であったが、この結果を参考にして設置場所などを検討し、10 月ごろに第二弾として実施を計画しているものである。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員) すばらしい取組だと思うので、ぜひ継続して欲しい。

(羽賀委員) 地球広場にも設置があった。書籍の選別が非常に良かったが、残念ながら手にはとるものの、じっくりと読んだり、印をつける人は少なかった。しかし、非常に興味を持ってもらえたと思うため、継続事業とすると定着するのではないか。

(青柳委員) 最初は「まちぼん」とは何かと思うのではないか。各設置場所に看板があるが、利用者の方で本の紹介だと受け取られた方がおり、自由に読んでくださいという趣旨が伝われば読む方が増えるのではないか。

(高橋教育長) とても良い事業だと思うが、より工夫をしながら新しい形にしなければならぬ事業だと思う。気軽に本に親しんでもらうことが目的であるため、例えばそれぞれの公共施設が利用者にあわせて独自に本をそろえる、公共施設でない施設も一緒に本に親しむ機会を提供し集客に生かすというように、まちなか全体の企画に広げていくという考え方も良いのではないか。現在、互尊文庫をどのような機能を持って移転させるかということを検討しているところであり、まちなかに本に触れることができる大きな拠点ができる。このような事業を行い、その時までには公共施設や民間施設を含めて本に触れる場所が多くなると、まちなかが本であふれて新たな魅力ができる。そのきっかけを図書館が作っているという大きな役割があるのではないか。ぜひ工夫をしてもらいたい。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 28 年度ポニー事業について、事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 平成 28 年度ポニー事業について説明する。今年度の実施内容については資料のとおりである。例年、夏季に開催しているポニーとキャンプ in 蓼科の応募が多数であるため、今年度は初めての試みとして、12 月 23 日から 12 月 25 日に冬期キャンプを開催する計画である。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) とても人気があり、応募数 84 名に対して半分の 42 名しか参加できないのは、ポニー牧場の収容人数の問題なのか、それとも予算の問題なのか。

(大矢子ども家庭課長) ポニー牧場の収容人数によるものである。

(青柳委員) 参加費用はどのくらいか。

(大矢子ども家庭課長) 3泊4日で2万8千円である。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、催し案内に入る。説明がある事務局は挙手を願う。

(大矢子ども家庭課長) 次代の親育成事業 親子とのふれあい交流について説明する。平成24年度から実施している事業であるが、これまでは1校または2校であったが、好評であるため6校に拡充して実施する。今年度の第一弾として岡南中学校で開催を予定している。

(竹内学校教育課長) ながおかハイスクールガイダンスについて説明する。例年、市内や中越地区の高校生から中学生に学校紹介を行っているが、今年度はさらに、キャリア全般を考え、ながおか・若者・しごと機構と協力し長岡市内の専門学校・高専等から参加してもらい大学・専門学校紹介コーナーを、市内の企業からも参加してもらい企業紹介コーナーを開設する。中学生のうちから将来の上級学校の様子や地元の企業の様子を知ってもらうため、事業内容を拡充した。今年度は新潟県の専門高校メッセと同時開催でなくなったため、会場に余裕があり、アリーナの中で同時に開催できるようになったからである。続いて、熱中！感動！夢づくり教育の、平成28年度保護者向け事業紹介パンフレットについて説明する。保護者にさらに周知するため、今年度初めて作成したものであり、取組の中で、個人で申込みができるものを1冊のパンフレットにまとめ配布した。

(高橋教育長) 他に報告事項や補足説明はないか。

(水島中央公民館長) 9月から開催する子育てのハッピーアドバイス講座 児童・思春期コースの募集を行っている。9月には羽賀委員にグローバル社会について、11月には大久保委員にインターネット利用についての講義を依頼している。定員に余裕があるため、関心のある方がいればぜひ紹介をお願いしたい。

(高橋教育長) 前回参加した方も受講できるのか。

(水島中央公民館長) 受講できる。

(大矢子ども家庭課長) 「家庭でワクワクお手伝い通信」、「完璧なパパなんていない！！ お父さん向け子育て応援講座」について説明する。「家庭でワクワクお手伝い通信」については年4回発行しており、今回は夏休みの取組方法について記載した。裏面は家庭でワクワクお手伝いポスターコンクールの案内である。続いて、「完璧なパパなんていない！！ お父さん向け子育て応援講座」について説明する。こちらは子ども家庭センターが主催しており、児童虐待防止につなげる講座の1つとして実施している。実施内容については記載のとおりである。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 他に報告事項や補足説明はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

---

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員